



こんにちは

# 村田 けい子

2015.10.23  
No.24

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868



ササ原に行く一行



「ここら辺に印があるはずなんだけど・・・」

## 10.22 境界踏査

秋晴れの日、茅野市柏原財産区のみなさんと一緒に境界の確認のために八子が峰を起点に歩きました。



八子が峰山頂で山浦副町長と議員の面々。蓼科山は快晴で、いい顔をしていました。



ここにも堺の印がある。



印を見つけると赤いスプレーでもう一度。

それぞれが持っている境界を記した地図をもち、赤いテープの目印を頼りに、場所を確認します。赤いスプレーで印をつけなおし、グラグラしている石柱を固めながら進みました。八子が峰の山頂にある印を起点に今度は下って、一つ一つ確認。「タンクの横」とか「石の上」と心覚えを書き込んだ地図を覗きこんで探します。下りはクマササの急斜面を滑り落ちるようになっておりました。昔の人は足腰が達者だったんだと感心。運動不足を感じました。ちょっと合わないところがあったみたいで、「もう一度測量をし直さねば」と総務課長。私は素晴らしい自然に親しめてうれしい一日でした。

**\*「議会だより」9月議会報告の編集委員会が開かれ、ようやく28日発行の運びに。**

新人6人で構成する議会だより編集委員会。6月議会終了後から9月議会までの議会の動きをコンパクトにまとめるのが大変な作業です。分担して記事をまとめるのですが、原稿の言い回しや誤字脱字、構成ミスなど多岐にわたり、結構時間がかかるんです。私と森澤議員に任せられた友好都市清瀬市との交流のまとめ。うまくいったでしょうか。ご意見をお聞かせください。

詳しくはウラを見てください。



ここが僕のお家！



今週のパチリ

シクラメンの鉢に水やりをしたら中からヌッと出てきたものが。ギョツとして手をはなしたら、何とアマカエルでした。ここをお家にしてたんですね。適度に湿り気もあるし、風よけにはなるし。居心地がいいのかも。



毎週土曜日  
午前11:00  
から30分  
ツルヤ信号前

安保法（戦争法）廃止  
の署名を始めました。  
日曜版に折り込んであ  
る署名にご協力をお願  
いいたします。

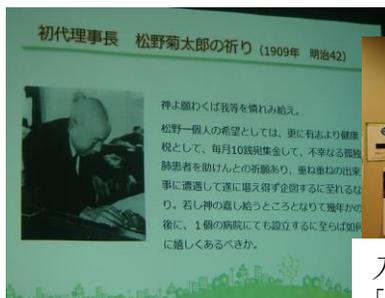


立科でも毎週やりますよ! 「安倍ヤメロ!」 「戦争法廃止!」



## 清瀬市議会との交流

災害の時に福祉避難所としてお互いに助け合うという協定を結んでいる「信愛の園」。短期入所やデイサービスが行われています。清瀬市は病床の数がダントツでまさに医療の町、その発端は、松野菊太郎さんが結核に侵された人々を救わんと一人決意したところから始まったとのこと。彼の強い信念と患者さんへの慈愛が今日の清瀬市の隆盛の大本にあるとのことにお話に素晴らしい先人がいたことに感激しました。



入所の家族による食事処「さざんか」。家族の手で運営されているという。

そのあと、清瀬市についてのスライド説明がありました。

1. 医療の町 医療世界遺産を目指しているとのこと 2. 文化を大切に 3. 農のある町 住みたくなる街でした。清瀬市も「医療と農のある町」を目指して緑被率が40%という緑の多い大変環境的にも素晴らしい町でした。そのうち20%は農地。人口が7万4千人もいるので、文字通り地産地消が実現できます。特産はニンジンで、東京都で一番の産地で人参ジュース、ジャム、焼酎などが商品化。休耕田はあまり見当たらず、市民農園などにも活用されていました。



病床の数は断トツ



休耕田を活用した  
ひまわり畑

清瀬市では小学生の時に立科町の山荘に行き、長野という立科というほど親しまれているということです。立科のリンゴとのコラボや立科米の販路拡大の可能性もあると思います。もっと市民レベルでの交流を広げていけば、立科の農業の活性化にも貢献できると思います。

駅前からケヤキロードが続き、その間に彫刻がおかれて町中が美術館のようでした。

町にあるものを活用して居心地の良い町づくりに成功している様子を感じることができました。わずかな交流の時間でしたが、また訪れたいと思う町です。

清瀬市では、いのちの大切さを知ってもらうために赤ちゃんに触れる授業を小中学生に行っており、この体験の後、家族にありがとうと感謝を伝えるそうです。



清瀬市市長  
渋谷金太郎さん

「手をつなぎ 心をつむぐ緑の清瀬」がまちづくりのスローガン。市長は、市出身の監督による映画の宣伝をし、意欲的に街づくりに取り組んでいることが伝わってきました。